

第1回「江戸街道プロジェクト有識者会議」 議事録

令和4年5月20日

○関東運輸局観光部国際観光課 大石課長

それでは只今より第1回「江戸街道プロジェクト有識者会議」を開催致します。本日はご多忙のところをご出席いただきまして、誠にありがとうございます。私は本日の司会進行を務めさせていただきます、関東運輸局観光部国際観光課長の大石と申します。どうぞよろしくお願いいたします。それでは本日の議事に先立ちまして、関東運輸局観光部長の岡村より開会のご挨拶を申し上げます。

○関東運輸局観光部 岡村部長

只今ご紹介に与りました岡村でございます。皆さま本日はお集まりいただきまして誠にありがとうございます。

開会に先立ちまして、簡単ではございますが今回の趣旨も含めて少しお話させていただきます。

この江戸街道プロジェクトは、コロナ禍で疲弊した広域関東を、新たなコンテンツで観光振興を図っていききたいという狙いでございます。街道は意外に知られておらず、関東五街道といえば、日光街道・東海道と皆様ご存知ですが、ではこれがなぜ作られたのか、どういった資源があるのかなどは意外に知られておりません。大きな街道ですら知られていないのですから、脇往還や大山街道や鎌倉街道等、小さな道はもっと知られていません。これは非常に残念だと思っております。これまでも既存の街道関係の商品や事業はやっておりましたが、これについても知られていないので、あまり認知されていないところがございます。こういったところを是非ともよい方向にもっていききたいというのが狙いでございます。

従って、単年度で終わるものではございませんので、今年度、今日の有識者会議を皮切りに色々なご意見でコンセプトをまとめさせていただき、事業を行いながら7月にはシンポジウムも考えております。実証実験も考えております。少しずつではございますが、進めていきたいと思いますので是非ともよろしくお願いいたします。以上を私からの冒頭の挨拶とさせていただきます。

○関東運輸局観光部国際観光課 大石課長

ありがとうございました。続きまして、本有識者会議の委員の皆様を委員名簿の順にご紹介させていただきます。

(委員名簿に沿ってご紹介)

それでは次に、議題(1)江戸街道プロジェクト有識者会議の設置についてです。本日は第1回目の有識者会議となりますので、要綱案、委員名簿を基に事務局より説明をさせていただきます。

○関東運輸局観光部 村田計画調整官

関東運輸局観光部で計画調整官をしております村田と申します。本日はどうぞよろしくお願いたします。資料の方は『江戸街道プロジェクト有識者会議要綱(案)』と『委員名簿』の2つになります。

(資料『要綱(案)』、「委員名簿」に基づき説明)

この内容で本日皆様方からのご確認が取れましたら、施行日は令和4年5月20日ということで、本日から施行させていただきたいと考えております。よろしくお願いたします。以上でございます。

○関東運輸局観光部国際観光課 大石課長

今説明させていただきました要綱案につきまして、委員の皆様よろしいでしょうか。異議はございませんか。

委員一同(異議なし)

○関東運輸局観光部 岡村部長

第3条の2項で委員の任期を令和4年度以内とするとございますが、有識者会議を断るというわけではございません。単年度更新と考えてございますので、そこだけご了承いただければと思います。以上です。

○関東運輸局観光部国際観光課 大石課長

それでは次に、要綱第4条2項に基づき、事務局より座長の推薦をさせていただきます。本日まで参加の委員の中で、街道に関して広く精通しておられる石田委員にお願いしたいと存じます。委員の皆様、よろしいでしょうか。

(委員異議なし)

委員の皆様のご了解を頂きましたので、石田委員に座長をお願いしたいと存じます。それ

では石田座長から一言ご挨拶をお願いいたします。

○石田 東生 座長

ご紹介いただきました石田でございます。正確に、街道に精通しているところをご紹介いただきました。道路や地域づくり、交通が専門でございます。観光は少しかじった程度でございます。皆様方のご協力、特に丁野さんのご協力が不可欠でございますので、お願い申し上げます。フランクな雰囲気、形式的でないしっかりとした議論を進めて参りたいと思いますので、合わせてお願いを申し上げまして、挨拶とさせていただきます。

○関東運輸局観光部国際観光課 大石課長

石田座長どうもありがとうございます。以後の議事進行につきましては、石田座長にお願いしたいと存じます。よろしくをお願いいたします。

○石田 東生 座長

それではプロジェクトの実施について事務局よりご説明いただき、時間を多くとって議論して参りたいと思いますので、よろしくをお願いいたします。

○関東運輸局観光部 村田計画調整官

それでは引き続き、私村田の方から資料に基づきまして説明させていただきます。

(資料『江戸街道プロジェクト有識者会議資料』に基づき説明)

○石田 東生 座長

江戸街道プロジェクトについて、ご説明ありがとうございました。これからしていきたいと思っていることについてもご説明いただきましたので、委員の皆様全員からコメントやご提案、アイデアを頂ければと思います。いかがでしょうか。

○高橋 佑司 代理

表現としても、「江戸街道」という言葉はとてもしっくりくると言いますか、素晴らしい言葉だと改めて思いました。ご説明いただいた中にありましたが、鉄道路線や主要な部分ともつながっている便の良さを活かすところも非常にポイントだと思います。2泊3日とありましたが、これも緩い2泊3日でよいと思っています。例えば、テーマに興味を持ってもらった人であれば、ある地域を楽しんで、その街道沿いを自動車でも自転車でも徒歩でも自由に楽しんでいただくというような緩い2泊3日です。また、街道はやはりリピートだと思います。この先へ行ってみようという魅力をいかに伝えるかなので、地域連携というのが非常に重要になります。更に奥へ更に奥へという形で、どのように一步一步進めていく

のかが非常に重要だと思いました。また、今回プロジェクトという形で行うので、成果をどのように置いていくのか共通認識をしっかりとっておくのがよいかと思います。説明の中で、2年目に地域連携の成功モデルというのもありましたが、DMOとの役割分担ですね。結局続けていくのは各地域の事業者やDMOなので、これをきっかけとして連携してやっていこうという地域をいかに作るかというところと、どうやったらうまく連携できるのか、成功モデルかつ街道版というものが考えられたらよいかと思います。また、ルースさんがいらっしゃいますが、インバウンドで、私も7年間西日本で働き、瀬戸内エリアや昇龍道、和歌山、奈良などの熊野古道のエリアも調査させていただいていました。外国人の方々が巡った時に4つ評価されたポイントがあります。日本らしい風景、日本の伝統文化、食、地域ならではの体験です。これらの部分で、江戸街道らしさとは何か、他のところとの違いをどう磨き上げていく、見つけ出していくのかが、調査で分かるとよいのかなと思いました。ひとまず以上です。

○石田 東生 座長

非常に幅広いお話をいただきました。お名前があがりましたが、ルースさんいかがですか。

○ルース・マリー・ジャーマン 委員

分かりやすいご説明ありがとうございます。資料も分かりやすくまとまっており、よいスタートが切れるなと思いました。今回、4つのポイントがあります。

まずそもそもの話になりますが、今まで全国で様々な取り組みがあり、どのようなところが失敗になったのか、オーバーツーリズムに繋がってしまったなど事例が沢山ある中、ゼロから作り上げていけるといえるところは、とても貴重な機会だと思います。そこで、外部から見ると少し厳しい言い方で恐縮ですが、あまり行政っぽくやっていくとはよくないのではないかと思います。このような集まりになると、「計画」、「事業」や「実施」という言葉が多いのですが、今回に相応しい言葉は「創造」や「ビジョン」です。今までは外国人と日本人を分けて考えてきた部分もありますが、今回は分ける必要がなく、日本人が感じとるものと外国人が感じとるものは、この江戸街道において同じではないかと思っています。そこを計画していく議論の中で、創造していく、ビジョンを語ることを「クリエイション」をしていくというような考えが重要なと思います。そこで、江戸街道のキャッチフレーズでは何がよいのかというところで、「Road」ではなく「Way」を使うのはいかがでしょうか。武道や華道、茶道などこれらの「道」は「Path」や「Road」でもなく「Way」という精神的な意味が含まれています。江戸街道においても、この「道」の上を通ることで自分の精神はどう変わったのかなど、そうしたポイントが重要なと思います。

次に、ここは要注意だなと思ったところは、資料 P3 の観光振興の部分で、「まずは一人でも多くの観光客に～」という言葉があります。今までのオーバーツーリズムやブームで、今年は非常に流行ったけど翌年には誰も来なくなるみたいな現象を作り上げてきたのはこ

ういった考えかなと思っています。まずは一人でも多くというのは確かに気持ちとしてはありますが、これからクリエイションしていくということであれば、まずは一人でも来てくださればその一人が大切にされ、その一人が更に人を連れてきてくれるような仕組みからです。似ている感じかもしれませんが、アプローチが全く違います。不特定多数の沢山の人々に来てもらうのが最終ゴールかもしれませんが、沢山の人々に来てもらうためには一人一人をどうやって大切にしていくか、個人にフォーカスを置くことが大切かなと思います。

次はターゲットの話になります。私は根っからの営業マンなので、こうした話が大好きなのですが、資料P5に国内観光客や訪日外国人とあります。これからの作業だと思いますが、もう少し掘り下げて、では何歳ぐらいの人達とかどういう趣味なのかということと、2泊3日というところで、2泊3日を過ごしてくれる歴史好き女子や健康志向の高齢者は果たして何人ぐらいいるのかなど。そこをやはりリンクさせないといけないかなと思います。もしかして、車や鉄道が大好きなゲーマーはよいお客様かもしれないと思いました。私も高橋さんと一緒に「食」に丸をつけましたが、事業コンセプトと2泊3日とターゲットをきちんと結びつけないと、なかなかターゲットは出てこないと思います。

4つ目のポイントとして、全てにおいてこの江戸街道のアイデンティティみたいなものを作るためには、事業コンセプトに「他地域にないもの」を条件にするとよいと思います。結局奪い合いになっても意味がないので、これは私たちの仕事だと思いますが、江戸街道を徹底的に研究して、他の地域には見つからないものを、例えば「このポイントから富士山が見えるが他の地域では見られない」とか、「このポイントでは富士山が見えるだけではなくて、この食べ物を食べながら富士山が見える」というような、オンリーワンを次々と出していけばブランドが確立され、江戸街道だからというよりも、「あれを体験したい」とか「あれを見たい」ということで、純粋に誘客ができるかなと思いました。

少し長くなりましたが、クリエイションと一緒にしていけること、光栄に思います。以上です。

○石田 東生 座長

ありがとうございます。同じく外国人と日本人と分けて考えない方がいいと思います。日本人の中でも世代が色々ありますし、私もかなり高齢者になってしまっておりますので。

○ルース・マリー・ジャーマン 委員

それと恐らく、コロナの後は日本人も外国人も含め、皆同じようなものを求めるのではないかなと思います。スピリチュアルのことだったり。

○石田 東生 座長

ありがとうございました。

○山崎 まゆみ 委員

山崎まゆみと申します。少し自己紹介しますと、私は温泉の専門家です。同時にユニバーサルツーリズムも10年以上ライフワークでやっております。宿泊業の皆さんとの付き合いが近いもので、宿泊業の皆様が少しでも応援になればという活動を日々しております。大学でも温泉保養、観光温泉学、観光取材学を受け持っております、女子大生に温泉を教えており、本年度は250人になります。ただ非常勤なので、クローズされていて責任があるわけではないので、どんどん女子大生を授業に受け入れて、どんどん温泉に行ってもらおうという授業をしております。まずは自己紹介でした。

ここ数年日本の観光の課題はとにかく地域が一体になること、地域が連携していくことです。点から点、点から線、面に、そして面にした上で稼いでいくことがどの地域でも課題になっているかと思います。地域がまとまる一つのアイテムとして「道」というのはまとまりやすいのかなと思います。先程もご説明がありました通り、実は街道でそれぞれやっているのに情報が一本化されていないということで、そこに取られるということに心強さを感じました。例えば仲がよろしくない地域があったり、基本的に地域はまとまりにくいものだと思います。そうした中で少しでもまとまりやすい要素である「道」というのは、この江戸街道プロジェクトを初めてご依頼いただいた時も素晴らしいアイデアだと私は強く賛同し、ぜひ委員にならせていただきたいと思います。思った次第です。

本題に入ります。2泊3日で、テーマを様々に何でもありにしていくのか、尖ったものにしていくのかといった話がありましたが、実証事業も含め手探りの1年間を含める3年度計画ですので、率直に申し上げたいと思うことがあります。大学や国の事業のほか、私はメディアで書いたり話したり発信する仕事を多くやっております。その中でよく地域の皆様が「うちは全てがあるので全てが見所です。」と言いがちなのですが、それでは結局何がよいか分からないため、尖れば尖るほどメディアに関しては取り上げてもらいやすいです。尖ったことが果たして地域にとってよいのかどうかは別として、やはり話題にしてもらわないと、「人が来てもらえない＝稼げるようにならない」です。そうした意味で、やはり話題になりそうな尖ったことも必要だと思っております。例えば私の専門で言うと、分かりやすくかつ尖ったことでもあり、かつその地域にとって無理なく継続できることが大切です。私の専門で言うと、江戸時代は湯治が旅の一つの在り方でした。湯治の場合、江戸の方々は草津に行って皮膚病を治したり体調を整えた帰りに、「仕上げの湯」といって、酸性泉や硫黄泉に入ってから、帰りに四万温泉に寄って、硫酸塩泉に入って仕上げの湯に入って戻ってきたという経緯がございます。このようなことを一つの柱として表向きにプレゼンをした上で、「温泉街道」のようなもの、例えば冷え性の人は2泊3日でこここの温泉をこのルートを使って行きましょう、婦人科系の病にお悩みの方にはこのルートだとベストマッチな温泉選びですといったような尖り方でもよいかと思います。あくまでも事業者の皆

様が飽きずに長く続けられるかが大切なので、本来はこの調査期間の中でその土地の皆様がかつて温泉をどのように活用してきたのかをきちんと掘り下げて、無理のない温泉街道のルートを作ればとぼんやりとっておりました。

また、矛盾することですがフラッシュアイデアとして申し上げてみますが、日本人はスタンプラリーが好きです。手っ取り早く成果を出すにはスタンプラリーをすると分かりやすい成果かもしれません。分かりやすい成果があると、また来年度も続けていこうと思えます。地域の事業者の皆様のモチベーションを維持し続ける意味でも、スタンプラリーで結果を出してからじっくりやっけていこうという戦略や考え方もありかなと思いました。まとまりがありませんが、思いついたことをすべてざっくばらんにお話させていただきました。ありがとうございます。

○石田 東生 座長

ありがとうございました。次に、宮崎さん、ぜひお願いしたいと思います。

○宮崎 俊哉 委員

そうではないかと思っておりました。去年、星さんが観光資源課長になられて、1年間数多く意見交換ややり取りをさせていただきました。中には高付加価値、いわゆる富裕旅行の話もご担当でやられておりますし、大きな話では「第2のふるさとづくり」があります。一般的な観光や旅行だけではなく、その地域とワーケーションやボランティア、あるいは関心が深いなど何らかの関係を持って、同じ所を何度も訪ねることが大事になってくるだろうと思っております。オンラインを介した働き方も広がっていくでしょうし、都心部から一方的に地方部に行くというだけの話でもありません。

また、持続可能な観光地域づくりの話として、来ていただいた旅行者の方にきちんと責任を持って行動していただくレスポンシブルツーリズムを促すような仕組みにしなければいけないことや、そこに住む人自身が自分の地域に対して誇りを持つシビックプライドが大切です。江戸街道プロジェクトを「点」の所で考える時に、この地域の歴史を知り、隣町とのつながりを知るといった話は、まず地域の方々がDMOと盛り上げていけるお題だと思います。観光関係の事業者だけでなく、先事業をやる際には、掘り出しの段階から学校を使ってもよいでしょうし、そのように皆様と一緒に取り組んでいくのがよいかと思えます。

また、このプロジェクト全体のゴールをどこに置くかという話がありましたが、江戸街道構想的な旅行商品やコンテンツを沢山作っていくことも一つあるとは思いますが、そういうものが沢山あるのが広域関東の第一の魅力ですと売り出すわけでもないかと思っております。資料にもあります熊野古道などは、どんなものがそこに行けばありそうか想像がつくので、ブランドとして成り立っております。そのため、それぞれの地域でコンテンツなり2泊3日なり、江戸街道プロジェクトを味わえるものを作るとともに、関東全体の地図を見た時にどのように江戸街道を位置づけてブランディングしていくのかは、別のレイヤーで考え

ていかなければいけないのではと思っております。五街道や脇往還等を全て一つのイメージで語るのには難しいと思います。そもそもそれが難しいので、北海道や九州と違ってなかなか関東をインバウンドの方にこういうエリアだと説明するのが難しいということがあると思うので、せめて五街道ごとぐらいに、例えば甲州街道はこんな風を楽しめるというような街道ごとのカラーを着けていく作業があった方がよいかなと思います。

○丁野 朗 委員

皆様の意見を伺っていると、どうまとめていくかが非常に難しいところがあるかと思えます。私は最初のルースさんの話に非常にピンと来ました。街道にどこまでこだわるのか少し悶々としていたからです。実際に街道にこだわるならば、実は道路だけではなく、江戸時代は海の道や川の道も非常に重要でした。街道はその中の一部なわけです。今では海や川は物流ではなく遊びの領域に入っております。ですからルースさんが仰っていた「Road」から「Way」に非常にピンと来ました。「江戸風」とは何か、「江戸好み」とは何か、300年経った今改めて江戸が非常に新鮮になっております。

今は縄文が非常にブームになっておりますが、同じように「江戸流」とは一体何なのかということを考えておりました。地域ごとに、あるいは街道ごとに持っている江戸の風合いは違います。例えば私が一番関わっているところでいえば、横須賀は街道からは少し外れますが浦賀のルートを持っております。横須賀といえば、近代は海軍の鎮守府というイメージが強いですが、実は近世以来の浦賀の歴史があったからそこに鎮守府が置かれたと思っております。

そのような地域を見直すために、この「江戸」あるいは「街道」というキーワードを使っていけばどうかと思います。まさに「Way」だと思います。どうやって考えていけばよいかということで、今はターゲティングの問題やマーケティングの問題が色々出ておりますが、基本的に、物語がきちんと背景になればいけないと思います。

今、文化庁の日本遺産や文化遺産の仕事をしておりまして、ストーリーが持つ魅力というのが非常に重要と感じています。一つ一つの資源を見てもなかなか繋がらないのですが、むしろトータルの物語として、ストーリーとして地域を整理できるとよいなと思っております。私たちがそこへ行ってみたいと思う大きな背景や動機には、何か物語を感じたいと思いつつ行くので、行ってみると「なるほどね。」と思うわけです。物語をどう作り上げていくか、コンセプト上の整理の仕方がとても大事ではないかなと思います。

実は昨日、日本遺産の中に「街道」がどの程度あるのか調べておりました。関東だけで言えば14の日本遺産ストーリーがあります。それらと街道を整理してみると、奥州街道は宇都宮（地下迷宮と大谷石）や那須塩原（明治貴族の那須野が原開拓）、甲州街道は甲州市（日本ワイン140年）や八王子市（霊気満山の桑都物語）など日本遺産ストーリーが繋がっていきます。そういう意味で街道ごとに差別化をしっかりと作り上げていくとよいのではと思います。

また「食」にも沢山のストーリーがあります。いま文化庁の 100 年フードや食ストーリーにも関わっておりますが、これらをうまく絡めながら差別化を図っていければと思います。実は中部の「昇龍道」も個別で見ると似たようなことをやっております。

話をまとめると、「Road」から「Way」へ、それから街道ごとのきちんとした物語を整理して訴求していくことが必要だと思います。

○石田 東生 座長

私からも何点か感想めいたものを申し上げたいと思います。やはりテーマをどうするかということで、大切なことは先ほど丁野さんが仰った通り、精神性や「江戸風」、「江戸好み」、特に江戸街道は江戸から始まっておりますので、精神性や文化、伝統というテーマを基盤に置きながら、それが食べ物であったり温泉であったりパールのネックレスのように連なっているものができ、様々な人が求めるものに対応できるようになります。しかし、共通して訴える魅力としての「江戸風」や精神性、文化や歴史の温かみのようなものがうまく形にできればよいと思っています。その際に、2泊3日というコンセプトは手頃でよいのですが、それが一回で終わるのではなく、高橋さんが仰ったように別の街道へ、あるいは更に奥へ奥へと進む連続性や連携性があれば非常に嬉しいと思います。

スタンプラリーということでは個人的な話になりますが、私は四国の歩き遍路の真似をした際、最初は納経帳を買いませんでした。しかし、途中でいざ買ってみるとやはり揃えたくなくなりました。そういうことは結構大切かなと思います。達成感と言いますか、やった感じが出ます。例えば、「街道で見るべき 100 個のこと」「やるべき 100 個の活動」などそうしたメニュー化もよいかと思いました。そのメニュー化を考える際に、資料には「DMO 等」が稼げるようにとありますが、この「等」の方がより重要かと思っています。地域の人たちが愛しているもの、誇りに思っているものをどのようにメニューの中に入れていくのか、見える化していくか、機会へのアクセスを提供していくかが大切かと思っております。

また、今や DX やデジタルの世界ですので、スマートになればなるほど市町村界が消えてなくなるとスマートシティ関係者間でもよく言われております。そうした時に、意味のあるつながりや物語、実際の人と人との気持ちのつながりが大切になっていくと思います。そうした意味でも、DX の活用の仕方を真剣に考えてもよいと思いました。東京から離れば離れるほど、公共交通は減っていき自動車に頼らざるを得ない部分もあるかと思っています。免許をお持ちでない方や、中国から来ていただく方は国際免許証を持っていないので、その際公共交通の在り方として「MaaS」という非常に強力なツールがあります。日本では「観光 MaaS」という交通手段や宿泊、飲食を連携して行おうという取り組みがありますが、これを明確に「観光 MaaS」という名称としているのは日本だけです。こうしたことも踏まえながら、実際に動きをどのようにスムーズに快適にしていくのかということと、スマート化や DX もテーマの 1 つになっていくかと思いました。

○ルース・マリー・ジャーマン 委員

今話を聞いて、ますます日本人と外国人を分ける必要はないと思いました。今まで私達は観光を考える時に、外国人と日本人とを全く別に考えてきましたが、今はもう日本全人口の3%ほどが外国人になっており、5年後には1割ほどが外国人になっているかと思います。加えて、日本人の好みがどんどん欧米化して、外国人、特に欧米系の人達は純和風が好きになっているので、丁度真ん中ぐらいのこれからの戦略として、言語や物語をきちんと背景まで説明することや大前提としての知識の対応は必要ですが、外国人と日本人をあえて分けない戦略はよいと思いました。

○石田 東生 座長

外国人との関係で言いますと、地名表記は盲点になります。熊野古道で活動されている方にお聞きした話で、熊野古道には「大塔」地区があります。日本人は「大塔」が分かりますので、ローマ字表記が「Oto」や「Ohto」、「Ohtoh」と複数あっても同じ地名だと理解できますが、外国人の方には別の地名に思われます。そうしたきめ細かいことも極めて大事かと思えます。

○ルース・マリー・ジャーマン 委員

外国人向けに親切にすると、意外にお年寄りや子どもにも親切だったりします。先ほど「第2のふるさと」の話もありましたが、まさに外国人に当てはまるお話だと思います。4年前の富士宮市でのとあるイベントで、弊社の外国人従業員が市長の話を聞いて以来、彼は東京に住んでいながらふるさと納税はすべて富士宮市に行っています。彼にとって富士宮市は「第2のふるさと」になっているので、そういう意味でも外国人にとってポイントだと思います。

○山崎 まゆみ 委員

私が言葉足らずでぼんやりとしか言葉にならなかったことを、丁野先生、石田先生そして皆様がお話くださったので、なんとなく同じようなことを皆様が思い描いていて安心しました。特に丁野先生の「きちんと物語を作ってあげる、紡いであげる」というお話は、その土地の方々がその土地に暮らしていることを誇れることに繋がると思えますし、それは案外私達も振り返ってこなかったことなので、地域の実はとても大切な資源を、この機会に3年をかけて見直し磨いていくということだと思います。

ただ、繰り返しになりますが、メディアの立場から言えば、素晴らしいことをいかに人に伝えるかとなった時に素晴らしいというだけだと上手く伝えられません。やるべきことは、きちんとストーリーを磨き上げていく、丁野先生が長くやっておられることをその土地土地で上手くやっていく、座組みを組んでいく、その中で表現方法や発信方法は工夫を付けていくことが必要です。稼ぐという意味では、消費者に届く仕掛けは、石田座長が仰っていた

「スタンプラリーをやると埋めたくなるよね」といった即物的な感情にも訴えかけられる仕掛けが必要かと思いました。

皆さんと向いている方向性が同じということで、今後より濃い議論ができそうで、大変有意義でした。ありがとうございました。

○高橋 佑司 代理

皆様の議論を聞きながら、江戸らしさは何か考えていました。「粋」という言葉があるかと思います。これは関西では全然浸透しておらず、改めてどういう意味かと調べたら、人情や相手の機微を感じて、そこに対して合わせられるような人と人とのつながりという意味で、「粋」という言葉が合うと思いました。今回、江戸街道というテーマにおいて、どんなところが江戸街道の良さなのか、言葉として共通認識を持っておくとよいと思います。

また、3カ年というプロジェクトは長いようで短いかと思います。勿論、その後も継続的に繋がっていくような取り組みがよいかと思いますが、今回3カ年でやっていく中で、どんなことがあればこのプロジェクトのゴールとしてよいのか、そこで終わりではなくそこからが始まりだと思いますが、共通認識をきちんと持っておき、ロードマップでは令和6年度の部分に「地域による取り組み」と記載されておりますが、ここをもう少し具体化してけるとよいかと思います。

○石田 東生 座長

宮崎さんいかがでしょうか。

○宮崎 俊哉 委員

「江戸」という言葉にどこまで意味を持たせるのかは、当初より考えておりました。国内、インバウンド双方を考えたときに、「江戸」をどう位置付けるべきかを考えておう必要があると思います。日本人には「江戸」で十分に分かりやすいですが、インバウンド向けにはどうか。今議論になったように「江戸」という言葉自体に色々な意味を持たせるべきだろうと。今日の議論で思ったことは、「江戸」という部分が何を表しているのか、「粋」であったり1つの持続可能な社会、あるいは地産地消的な社会やそうした意味を持たせた上で、海外向けにもアピールする言葉として「江戸」を使っていければというのは、頭の体操みたいなどころありますが、整理をした方がよいかと思いました。繰り返しになりますが、粒ごとだけではなく、俯瞰して見た時に、街道のルートや「関東」としてのストーリーを、このプロジェクト内か外かは分かりませんが、考えていけるとよいかと思いました。

○丁野 朗 委員

仰る通り、「江戸」という言葉への拘りには難しい部分もあると思います。私の持論の1つですが、現在の価値観と少しずれたところに遊びや観光があると思っています。「N」が

今の価値だとすると、「N-」「N+」に遊びや観光があります。過去であったり未来であったり、今の主要の価値観にはないようなものが、現代の我々には非常に新しく感じるということもあります。それを総じて「Edo Way」のような言い方でも構わないのではと思います。

観光立国を提唱された故木村尚三郎先生は、晩年に江戸の研究に力を入れておられました。元々は西洋中世史がご専門の先生ですが、なぜ江戸をやったかという、比較史の視点ですね。比較して初めて双方が分かるということでしょうか。

この話には観光立国の基本的なコンセプトが色々と詰まっております。江戸街道の事業には、地域自治体や観光協会、地域の様々な方々の参加をどのように促すかが大変なポイントになってくると思います。例えば、長崎街道は「シュガーロード」として日本遺産に認定されました。街道には他にも色々な役割や機能がありますが、あえて「シュガーロード」として編集し、その中にあるお菓子だけではない食文化を一つ一つ整理して、まずはそこで訴求することにしました。このように考えると主街道だけでなく、さまざまな役割を担ってきた脇往還なども含めて、街道ごとに何か物語を提案してもらうのも面白いかもしれません。

こうしたことを地域の側で考えていただき、さまざまな方々に参加してもらうのもよいかと思います。各地域からの提案に対しては、運輸局の方でコンペを行うなど、場合によっては観光庁の事業にエントリーしてもらおうということもありかと思います。

○石田 東生 座長

抽象的な話になりますが、江戸をどう考えるかはきわめて大切です。江戸の粹さや文化も大切ですが、今の時代から見て大切なのは、江戸時代は実はごみゼロ社会で、ごく一部でしか石炭を使っておらずCO2もほとんど出していなかったわけです。その時代を基盤にしているという意識は持った方がよいかと思います。

街道ということでもう一つ重要だと思ったのが、街道は参勤交代によって整理されたものを庶民も使うことができたということです。それは何かというと「風土」という言葉があります。「風」と「土」です。「風」は旅人が持ってくるもので、「土」は根っからのものです。あなたも「風」の一部分として担っているというようなメッセージも、上手く絡めて展開できればよいなと思いました。

本日はどうもありがとうございました。皆様の持っているイメージも大体共有できたかと思いますが、問題はこれをどうやって具体化していくかです。7月4日にシンポジウムがありますので、皆さまにもご協力、ご登壇いただくことになります。またそこで議論を続けていきたいと思っておりますので、安心して具体的なアイデアをお考えいただければありがたいと思います。本日頂いたアイデアを事務局に具体化していただき、会議そのものは間が空きますが、その間でも頻繁に個別に連絡をいただくようにしますので、そういった形で進めさせていただければと思います。

○高橋 佑司 代理

1点だけよいでしょうか。折角ですので、岡村部長、北陸信越運輸局坂本部長、関東地方整備局森課長のお話も、頂けたらありがたいなと思います。

○石田 東生 座長

それではまずは岡村部長からお願いしてもよろしいでしょうか。

○国土交通省関東運輸局観光部 岡村部長

私の前に、まずは坂本様と森様から一言ずつ頂ければと思います。

○北陸信越運輸局観光部 坂本部長

私は7年ぶりに観光分野に戻ってきたもので、久々にこのような議論をお聞きしました。7年前は北陸新幹線が金沢に延伸になる時で、非常に観光が盛り上がっていた時代です。2年間観光をやらせていただき、そこから7年経った今、議論を聞いていて非常に熱くなりました。やはり観光は答えがなく、皆で議論しながら方向性を決めてやっていくのが観光かなと久しぶりに思い出させていただきました。ありがとうございます。

私どもの管轄は長野、新潟とこの関東で、富山、石川はDMOで言えば中日本、中部の方になりますので、関東は羽田や成田、中部からはセントレアから、どちらにせよ上がってきてもらわないと私どもの管内には入ってきていただけないので、このような街道プロジェクトを利用しながら、奥へ奥へと私どもの管内にも入って来ていただき、松本や高山、その先の金沢や富山とも一緒に連携していければよいなと思いました。今後とも北陸信越運輸局としましてご協力させていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○関東地方整備局企画部広域計画課 森課長

本日は様々なお話を聞かせていただきありがとうございました。私ども関東地方整備局は、インフラ整備、道路や港湾、空港を作り、それらを皆様に使っていただき、地域の交流や活性化をしていただくということでやっているため、なかなか観光というテーマに携わることがありませんので、こういった議論を聞かせていただき刺激にもなりますし、協力できることは何かこれから考えていきたいと思っております。整備局の方でも、関東富士見百景や道の駅などの施策といますか、「こういったところに行けばこういったものが見られる」というようなことはやるのですが、プロデュースが下手で、開設したインスタグラムもフォロワーが4桁に達していません。観光を活性化する中で、我々を使っただけのように努力していきたいと思っておりますので、これからもよろしくお願い致します。

○国土交通省関東運輸局観光部 岡村部長

本日は様々な有意義なご意見を頂きまして、ありがとうございます。しばらく私も眠れない夜が続くのだろうと思います。これまでも眠れない日は続いていましたが、更に続くのだろうと嬉しい思いをしております。

本日意見を頂く中で、私なりに色々と考えさせていただきました。まず、最も感じたのが、日本人もインバウンドも関係なく同時に考えていくということだと思います。これまで関東運輸局も含め、国の施策は分けてやってきており、現在もそうしております。これに関して、今後は変えていく必要があるのかなと感じております。

インバウンドの話では、先日ルースさんから「対象国を決めるというよりは、むしろ年取や学歴で考えると、日本に旅行に来る旅行者の層は万国共通になる。」というお話をお聞きしましたので、そうしたところも考えていかなければと思います。

「Road」から「Way」の話については、非常に感銘を受けました。私自身もとある武道をやっておりますので、精神性を非常に大事にしていることもあり、まさに目から鱗です。

「Way」ということで考えていければと思います。これには「江戸風」ということにも絡んでくるかと思えます。

「江戸街道」について申し上げますとすれば、やはりこの「街道」というものが、先ほど石田座長の話でもありました通り、参勤交代で徳川時代に入ってから整備された道ですので、そういった意味で掘り下げていくのも大切かと思いました。これから勉強させていただく中で、文化、伝統も掘り下げていきたいと思っております。

また、これまで国が実施した事業の中で、単年度予算で地域のコンテンツ造成などをさせてもらいましたが、それが終わった後に何も残らないというのが本当に私の反省点と思えます。今回の江戸街道プロジェクトは、この反省を踏まえながら工夫していきたいと思っております。

もう少し時間がございますので引き続きご意見があれば伺いたいと思っております。

○山崎 まゆみ 委員

質問よろしいでしょうか。7月4日のシンポジウムはある種とても大切な機会かと思えます。このシンポジウムは、私はどのような心構えで臨めばいいのか、ギャラリーはどんな人がいるのか、我々はどんな立ち位置でお話をさせていただければよいのかを、もう少し明確にさせていただけると幸いです。準備したいと思っております。

○国土交通省関東運輸局観光部 岡村部長

正直に申し上げますとこれからの検討課題として、日にちもあまりございませんので、急がなければいけないと思っております。何分にもこのプロジェクトの検討が始まったのはまさに今日からでございますから、何か成果を見せるのは難しいと思えます。したがって、キックオフという位置づけから、既存の街道事業で、関東で言えば箱根八里が成功モデルに近いかと思えますのでそうしたものも含めながらご紹介できればと思います。その前段で

は、この街道事業のコンセプトについても提案させていただければと思います。その後、これはパネルディスカッションにご参加していただくのか、あるいは個別にお話していただくのか形式は未定ですが、そのあたりを整理させていただき、なるべく早めにご相談させていただこうと思っております。

○山崎 まゆみ 委員

ギャラリーはどのような方がいらっしゃいますか。

○国土交通省関東運輸局観光部 岡村部長

ギャラリーには我々と、関係者である基礎自治体を含めた都県、DMO がメインとなる観光関係事業者の方々に入っていただこうと考えております。このご時世ですので、あまり集まってしまうと密になってしまいますので、今考えておりますのは、多くても 100 人ぐらいのリアルに集まっていただく方々と、その他は方々はオンラインによる、ハイブリッドで開催できればと思っております。

○宮崎 俊哉 委員

途中の議論でも出ておりましたが、石田先生から DX の話がありました。私は去年、持続可能な地域づくりというのを奈良県と UNWTO と一緒に、山の辺の道、天理、桜井の農家や観光関係の皆様が集まっていただいて、これからどうしていこうか、もっとお金を落とさせていただくにはどうしたらよいのかという話がありました。そこで、山の辺の魅力として、柿などの特産物の無人販売所があり、それがスマホ決済できるようにして、データを取りながら誰もが楽しめるようにしようという話がありました。小銭が無いので諦める外国人の方が結構いらっしゃるということがあったので、DX の使い道は色々あるということと、ふるさと納税の話が途中でありましたが、今では旅行先で直に納税するような旅先納税というものもあると思います。あるいはクラウドファンディング的な話で、レスポンシブルツーリズムの流れの中で、その地域に行って直接的に地域の環境を良くする、文化財を守るというようなものであればこれだけお金を出してもよいというようなものを、例えば江戸街道マークがついた文化財や様々なものについて広く受け取るような仕組みについても考えただけだとよいかなと思いました。

○丁野 朗 委員

これは意見ではなくお願いになりますが、7月のシンポジウムから3月の全体会議まで期間が大きく空いてしまいますので、この間にどういったところをどのように調べていくかがコンセプトを具体化する意味でもとても大切だと思います。この間の調査研究結果についても、連絡を取り合いながら進めていければと思っております。

○石田 東生 座長

第 1 回から活発に議論いただきましてありがとうございました。これをもちまして私の司会は以上とさせていただきます。

○国土交通省関東運輸局観光部国際観光課 大石課長

石田座長及び委員の皆様、本日は長時間にわたり活発に御議論いただきまして誠にありがとうございました。改めて御礼申し上げます。最後に関東運輸局観光部次長の春山より閉会のご挨拶を申し上げます。

○国土交通省関東運輸局観光部 春山次長

有識者の皆様本日はお集まりいただき誠にありがとうございました。大変貴重なご意見の数々、第三者的に見て非常に面白い会議でした。この後、当事者となることを思うと岡村部長と同じく眠れない夜なのだろうなというところです。来月早々には関東運輸局管内の関係者の方にこのプロジェクトがスタートした旨を別会議で諮らせていただきます。本日の会議の内容を関係者の皆様にお示しさせていただく形になります。この後、運輸局でまとめてこの形でよろしいかを皆様に確認させていただきます。先ほどの話にもあったように、7月には一般の方向けにも広く PR する形にもっていきます。本日は貴重なご意見を数多く頂き、ありがとうございました。委員の皆様方、引き続きよろしく願いいたします。

それではこれもちまして、第 1 回有識者会議の方を終了させていただきます。本日はありがとうございました。

以上